

平成30年07月26日

野々市市議会議長 様

(報告者)

会派名〔又は〕 市政議員会
 代表者〔議員名〕 土田 友雄



政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、~~研修~~、~~要望~~・~~陳情~~）を実施したので、報告します。

期 間	平成30年07月17日から 平成30年07月20日まで
視察、研修、要望・ 陳情の場所	宮城県仙台市内（ゼビオアリーナ仙台隣接施設）・青森県八戸市役所・ 北海道函館市内（函館アリーナ）
参加者氏名	杉林 敏・宮前 一夫・安原 透（他会派6名 計9名）
目 的 (調査・視察事項)	体育施設整備にあたり、実際の施設整備の経緯・経過及び運営管理の 状況（ゼビオアリーナ仙台隣接施設・函館アリーナ）、並びに検討中の 施設の検討・経緯経過（八戸市）についての調査研究。
調査・視察概要	<p>（目的、内容、結果、所感等について記入）</p> <p>体育施設整備検討委員会が視察調査研究を企画（有志9名が参加）。</p> <p>7月17日（火）</p> <p>宮城県仙台市内においては、ゼビオアリーナ仙台に隣接したエリアで 屋外でテント張り構造とし、建設コストを抑えた施設及び関連施設を 視察。</p> <p>全天候型屋外体育施設（3棟：主にバスケットボール・テニス・フット サル）の建設コストと運営状況についてお伺いする。</p> <p>また付帯施設としての、フィットネスジム併設の駐車場及び屋台村棟 を見学した。</p> <p>7月18日（水）</p> <p>青森県八戸市においては、新しい形の官民連携によって数年後に建設 が予定されている体育施設の構想から契約までと、運営形態について、 八戸市役所にて調査。</p> <p>JR北海道新幹線 八戸駅前の土地区画整理事業状況と、そこに八戸 市民が最も愛する氷上スポーツのための、各施設（アイスホッケー場 や、スピードスケートリンクなどの屋内アリーナ）についてお伺いす</p>

	<p>る。</p> <p>また、氷上リンクの上に断熱素材を敷き詰め、バスケットボール等の競技会場にもなる多目的アリーナについてお伺いする。</p> <p>7月19日(木)</p> <p>北海道函館市においては、コンベンション機能を有した多目的スポーツアリーナの運営を中心に調査。</p> <p>コンサートホール並みの音響空間(残響音)を有するメインアリーナ(グレイのコンサートなども実施)の視察と、市との共同運営管理手法をお伺いする。</p> <p>考察</p> <p>仙台の体育施設では、低コストでの設置(バスケットボールコートで約1億円)と屋外ならではの低コストでの運営管理に加え、民間への時間貸与による収入という両側面での意識の在り方に感銘を受けた。</p> <p>また隣接するフィットネスジムにおいては、ゴルフ・水泳などからジム・スタジオまで多岐にわたる運営が市民に好評でもあり、施設の拡充を進めているのを目の当たりにした。この考え方は当市でも検討に値すると思う。</p> <p>八戸の施設計画では、アイスホッケー人口が全国No.1の都市らしく、土地区画整理事業の中でも「集」テーマにしたゾーニングにより、土地は市が民間事業者は無償提供、建物建設と運営管理は民間事業者が行い、年間一定時間を市が借り上げるという発想は、事業として体育施設運営をコストという発想でしっかり意識していると感じた。市の特性スポーツだけではなく、アリーナの氷面の上に断熱フロアを設置すれば体育館になるという発想も多目的という観点からは素晴らしい考え方である。</p> <p>函館の施設は、コンベンション機能、避難施設としての機能、コンサートホールとしての機能を体育施設に持たせた本格的な「多目的施設」となっている。武道館エリアでは各競技だけではなく、3つのフロア空間を、通し施設にすれば弓道場にもなるという発想でした。</p> <p>必要なハコを必要な数だけ作るのではなく、様々な創意と工夫で、決して安易な多目的ではなく、十分な機能を持った多目的の施設にしている点は、野々市市におけるコンベンションゾーンの発想の一助にもなりうるのではと考えた。</p>
備 考	

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。